

## 市長と語ろう！（立川市老人クラブ連合会理事会） 【 概 要 】

平成27年11月10日  
14時30分～16時00分  
柴崎福祉会館集会室

### 1 開会の挨拶

#### （立川市老人クラブ連合会会長）

考えれば、今の政権になってから、地方創生、一億総活躍など、いろいろな方針を出していただいて、私たちに、どんどん元気で活躍するようおっしゃっていただいているような気持ちであります。私たちとしては、この立川市を、すばらしい郷土に育てていくようみんなで頑張っていきたいと思っております。

市長さんに甘えた気持ちで申し上げたいのですが、1つは、私たちの旅行の補助です。今、市より1泊の場合は2,500円、日帰りの場合は1,000円いただいています。老人の楽しみの1つに旅行があり、旅行に行く人はみんな元気だということで、できれば補助金をもう一口ぐらい増やしてくれたら嬉しいという声がございます。

それから今、5か年計画で、老人会の会員増強に頑張っています。私たちの仲間に入っただいて、健康や生きがいや、みんなとの絆などを深めていくことが、ひいては地域社会を充実させることになるとの思いで、全国で会員増強に頑張っております。

しかしながら、なかなか難しい状況です。立川市老人クラブ連合会の会報にて、いろいろな諸活動の情報提供等をしてしておりますが、会員用の会報ですので、会員ではない方々のところまでは届きません。できれば、今後老人会のいろいろな情報を、会員ではない方々に伝わるように、市の広報に載せていただくと大変心強く思います。

#### （市長）

私、市長をやらせていただいて9年目になりますが、このように大勢の皆さんの前でのタウンミーティングは初めてでございます。今会長から、2点お話をいただきました。1点目については、今後の課題とさせていただきます。

2点目のほうですが、皆さん、広報をお読みいただいていると思います。月に一度、私が、1面の一番下のところに「語らい夢みらい」というコラムを書いていますのでそこを使ってもいいと思います。また、広報は月に2回出ています。毎月10日発行の1回目は、主に市役所から皆さんにお伝えしたいことを中心に書いています。毎月25日発行の2回目は、市内にある団体の皆さん専用の紙面があります。そこに、お申し出があれば、載せることはできます。

今年度は、立川市第4次長期総合計画がスタートし、「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」という将来像を定めました。

なぜ「にぎわいとやすらぎ」なのかと言いますと、「にぎわい」はもうご存じのとおり、JR立川駅の南北の繁栄ぶりです。それから「やすらぎ」というのが、旧砂川地域などです。農地がまだ約290ヘクタールあります。これは多摩26市の中で3番目の広さです。農産物もたくさん生産されています。植木生産本数は東京都ナンバーワンです。

こういう緑豊かな、畑が広がる住宅地が、旧砂川地域に広がっています。そして、北側は東西に玉川上水が流れています。南側は多摩川、その多摩川と玉川上水を結ぶ残堀川が

南北に貫いています。さらに、およそ180ヘクタールの国営昭和記念公園があります。

それから、大勢のお客さんが立川に来る、立川の人も外に出ていていろいろなものを吸収しながら立川のまちへ帰ってきて、そしてまちの繁栄のための努力を、あるいはご商売などをやってもらうという意味で「交流都市」となりました。

交流都市を進めていくためには、先頭を切っていくのを誰かお願いできないかなということで、市内在住の世界的なジャズピアニストである山下洋輔さんをお願いいたしまして、「交流大使」になっていただきました。

第4次長期総合計画には4つの基本理念があります。その一つを「シニア世代や女性をはじめとした多様な人材の活躍。市民それぞれが生涯活躍できるまちづくりを進めていく。」としました。ぜひ、皆さんには現役のときに培っていただいたノウハウや考え方、これを地域社会の中で生かしていただきたいです。地域づくりをしっかりとやっていただくことによって、立川のまちが、大勢の高齢者や若者たち、子どもたちが一緒になって活動するまちになっていただきたいなと願っています。

もう既にその動きが出てまいりました。各小学校で、放課後子ども教室というのをやっています。シルバー人材センターの方々をお願いをして、何か所かの学校で指導者をやらせてもらっています。お手玉やベーゴマを教える方など、いろいろなことをやって子どもたちの生活の知恵を高めるようなことをやり始めています。

そういうことを始めることによって、高齢者の方々も体も動かし、お医者さん要らずのまちになっていけばいいなという芽が出始めております。今後もいろいろな形で立川市老人クラブ連合会やシルバー人材センターと連携しながら、まちの中で高齢の方が活躍できるように考えているところでございます。

## 2 意見交換

### (参加者)

介護保険と、後期高齢者の保険の料金が10年の間にどんどん上がっています。ほかのものと合わせると、計算上は、生活費なんていうのはなくなってしまいます。

これは国の決めた政策ですから立川市が悪いというわけではありません。立川市は代行して徴収しているだけですが、年を追うごとにどんどん支払いが上がっていくというのを、どう考えるかお聞きしたいと思います。

### (市長)

これは一言で言うのなら、高齢社会が急速に進んでいるということです。何といても寿命がどんどん伸びていくものですから、お医者さんにかかる人も多い。それから要介護度4、5の人がどんどん増えていく。老人ホームに入らなければならないとか、それを手当てしなければならない部分があるということです。大変厳しいだろうなというのはよくわかります。おっしゃるとおりだと思います。

ただ、できるだけ病院にかからなくても済むように、あるいは老人ホームに入らなくてもいいように、いわゆる高齢者の健康づくりをしっかりとやっていこうじゃないかということで、高齢者の方が心身ともに健康な状態を保てるような、いろいろな施策を展開しているところでございます。

具体的な話につきましては、担当部長が来ておりますので、少し説明させていただきます。

す。

**(保険医療担当部長)**

今、市長がお答えいたしましたように、世界に類を見ない超高齢社会という中に日本はあります。例えば一人当たりの国民健康保険の医療費は、4年間で約2万円上がっています。

これは、医療の高度化という診療報酬自体の単価の上昇もございます。ただ、対象となる方、医療受診される方、あるいは介護保険制度であれば介護サービスを受けられる方が増えております。介護保険で言えば、第二号被保険者の方の負担も年々増えておりますし、全ての国民が負担するという原則から、給付費用が上がれば保険料負担も増えていくというような仕組みの制度でございます。市としましても、一人一人の健康づくりの意識啓発に努めていきたいと考えてございます。

**(参加者)**

先ほどからまちづくりということで、特に人口というのは大きなテーマになると思います。既に今では超高齢化社会というよりも、もう高齢化の「化」を取り除いて、高齢の社会であるということが言われています。

そういうことで、立川市のほうでも人口構成についてどのように分析なさっているかをお聞きしたいわけですが、現役の20代、30代が何%、それから中高年が何%、老人人口は何%になっているかをお尋ねしたい。

**(企画政策課長)**

2015年現在で立川市の老年人口比率は25.36%、15歳から64歳までの生産年齢人口比率が63.52%ということで、いわゆる高齢者お一人を生産年齢人口が約2.5人で支えている状況です。

これが1980年代ですと、10人で1人を支える状況だったのですが、もう既に現在、2.5人で1人を支えているという状況です。これが今から25年後の2040年には、老年人口比率が35.89%、35%を超えると分析しております。生産年齢人口1.55人でお一人の高齢者を支えるような状況になると推測しているところです。

**(参加者)**

南北のバスの本数が年々減って、今は1時間に1本程度です。そのバスも買い物に行く高齢の方で大変混雑し、またよく遅延します。

なぜ遅れるのかなと思ったら、夕方に昭和記念公園から帰る人たちが曙町の立川北駅の信号を渡るんです。せっかく上に歩道をつくってもらったんですけども、行きは上を歩いても、帰りは上るのが嫌みたいです。そんなことで、そこが午後4時から6時まで2時間、もう混雑しっ放しです。

さらに、今度ららぼ一とができれば、駐車場が3,000台、そのほかにあと2,000台などという話をこの間聞いたんですけども、そうなったらこの交通事情はどうなるのでしょうか。

(市長)

まず、昭和記念公園の来園者については、デッキを使ったり橋を使ったりという誘導をしてもらいたいということをお園の方へ申し入れてまいりたいと考えています。

それから、ららぽーとの渋滞の問題は、私も本当に頭が痛いです。実は、ららぽーとが常設の駐車場を3,200から3,300台用意しております。そのほかに隔地駐車場といまして、ららぽーとからちょっと離れたところに臨時的に用意していて、来たお客さんをバスでららぽーとまで送迎します。

そのほか、ららぽーとに来るお客さんには、車でなくて公共交通、バスやモノレールを使ってくださいというキャンペーンを大々的に始めるというお話を聞いています。

先日も運営主体の三井不動産に市民の心配はこうですよということをお伝えして、できるだけ万全を期してまいりたいというふうなお話を伺ったところです。

(参加者)

老人会の会員増強は具体策が必要だと考えています。また、いわゆる65歳から70歳ぐらいの若い世代の方をメインに、何か新しい方法で入会いただく方法はないかと考えております。先ほどから健康の問題が出ているので、いわゆる老人クラブに対して健康指導的なことができる方を養成していく、それをクラブのメンバーにしていく、そういう関係で活性化が図ればいいかなと思います。

それから、私もその一人なんですけれども、老人で、いわゆる身寄りが少ない状況で、緊急に入院とか事故に遭ったときに、保証というか、「こういう処置をしてください」ということが、言える立場の人がいるといいんじゃないかなと思います。

もし、市の証明制度があれば、例えば病院に行って、私はこのAさんと、こういう契約をしていますから、Aさんに尋ねてくださいということで処置ができるのではないかなと思うのです。

私は現在、委任状は交わしていますが、果たして病院が、委任状で処置をやってくれるかどうか非常に不安です。公的証明書等で処置ができれば、これは非常にありがたいな思っております。

(市長)

妙案は今、私には浮かばないので、市長への手紙というものもありますから、ぜひ送っていただければありがたいと思っています。

それから、身寄りのない高齢者の方についてです。一つは、ご近所に民生委員さんがいるはずですが、民生委員さんは法律に基づき、厚生労働大臣から委嘱されて、仕事をしています。行政をはじめ適切な支援やサービスへの「つなぎ役」としての役割を果たしていますので、ぜひご近所の民生委員さんにご相談をしていただければと思います。

それからもう一つ、平成24年に羽衣町でひとり親家庭の母子や高齢母娘などの身寄りのない方が、4人も別々のお宅で亡くなって、1か月も2か月も放置されていたという事故がありました。それを受けまして、見守りホットラインをつくりました。24時間連絡がつくようになっています。

その見守りホットラインに加盟してもらっているのが、新聞屋さん、それから電気・ガス・水道屋さん、郵便屋さん、銀行員さん、自治会さんなどです。近所のお宅で新聞がた

まっているとか、電気のメーターが止まっている等、日常とは違う異変が起きたら、空振りでも結構ですから、その見守りホットラインへ電話してください。

**(福祉保健部長)**

今、市長が申し上げました、見守りホットラインですが、これは24時間体制で皆様からのSOSを受け付けている専用ダイヤルです。「Ca11おお通報！」と、私たちは言っております。Ca11というのが「506」、おお通報というのが「0024」、506-0024、これで「Ca11おお通報！」ということで、もしもということがあった場合には、この番号に電話をしていただきますようお願いいたします。

**(市長)**

夜中でも、早朝でも構わないです。空振りオーケーです。おかしいなと思って通報して何ともなかったということでも、申しわけないなと思うことは一切ありません。空振りを前提にして電話をください。

中には、長期旅行に出かけていますとか、結構あります。それはそれで、安否の確認ができたから、目的が達成できています。その人がどういうふうなことをやっていたかということがわかれば、その電話の目的は達成できたわけです。

**(参加者)**

老人クラブ補助金の金額が年間27万3,600円でずっと変わりません。人員が増えても補助金がプラスになるのは、2万円か3万円です。

子どもは、いろいろな友愛活動の一つとして、年2回、昭和記念公園でお花見会をやっています。例えば、1年に1回でもいいから老人会クラブ無料招待ですとか、市のほうでこういう特典がありますよ、こういうことがいいですね、というようなことがあるといいなと私は思います。

**(市長)**

大山団地では、大変先駆的なことをやっております。大山団地は都営の賃貸アパートですが、自治会として、アルバイトをしています。都営住宅の中にある駐車場の管理を東京都から請け負って、それでメイク・マネーをしています。200万円を超えるそうです。それを原資にして運動会などいろいろなことをやっているというお話がありました。

例えば運動会は、団地から出ていった息子や孫を何人呼んでも、その子たちの弁当までもらえるそうです。立川の自治会がやる運動会の中で、大山団地の人出が一番多いです。団地だと、例えば私が1号棟にいるとします。「2号棟の3階の窓が昨日もついてない。今日、窓から見て電気がついていない。向かいの2号棟の3階の部屋はおかしいよ。」という、そんな通報の仕方もやっているそうです。ぜひ参考にしていただければと思っています。

**(参加者)**

南武線の高架化についてはどのような状況でしょうか。

それから今、トンネルで線路の下をくぐる大きい通りは1本しかないので、思い切って道路を線路の上を通すような大胆な構想を掲げていただきたいと思います。

(市長)

南武線の高架化は今府中まで来ました。その後国立を通過して立川まで高架化になる予定です。

それから、都市計画道路のような幅員30メートル片側二車線ぐらいの道路がもう一本あると、南北交通がスムーズになるということでございます。芋窪街道をご存じでしょうか。砂川七番のところから泉体育館のところまで片側二車線で広がっていますが、その南側はまだ広がっていません。陸上自衛隊東立川駐屯地の脇を通過して、そのまま南へずっと伸びて甲州街道へ抜けるという都市計画道路となっています。このような形で、次の新たな南北の縦貫道路ができると、考えています。

### 3 閉会の挨拶

(市長)

長時間にわたりご協力をいただきまして、大変ありがとうございました。

市長への手紙が、各地域学習館や学習等供用施設等に置いてありますので、ぜひそれを気軽にご利用いただき、感想なりご提案なりを頂戴できればありがたいと思っているところでございます。

本日は、大変ありがとうございました。